

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」【新庄北】

1 経緯

山形県の新庄・最上地域は、県内でも特に高齢化と人口流出が著しい。上級学校に進学した生徒が地元に戻ってくる割合は、約2割となっている。

このような状況の中で、平成26年度から「総合的な学習（探究）の時間」に「地域理解プログラム」を開講し、キャリア教育の一環として地域課題に係る探究型学習を実践してきた。平成29年から、最上地域の8市町村が企画を持ち寄る「ジモト大学」プロジェクトがスタートした。そして、平成31年度から「新庄・最上LINK プロジェクト」が文部科学省の地域協働事業に指定されたことで、地域連携の取組みが大きく拡大した。

2 「新庄・最上LINK プロジェクト」の概要と4本の柱（A～D）

地域の自治体・企業・活動団体、そして地域住民等と連携し、地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成する

A 地域と密着した探究型学習

・ 地域理解プログラム

探究型学習の基礎となるトレーニング、地域課題について研究し、プレゼンテーションを行う。2年次の「地域理解発展研究」につながる。

・ 「ジモト大学」プロジェクト

県や市町村が地域課題を体験できる講座を提供し、課外で受講する。

・ 令和元年4月に、地域系部活動（地域連携部）が発足した。

B ICT技術の活用

・ 「ジモト大学」Web システムがすでに稼動している。生徒は「ジモト大学」の申込みを自分のスマートフォンから行っている。

C 新しいキャリア教育

・ 今年度、アカデミックインターンシップを実施する予定で準備している。関係機関に依頼してミニトークフォークダンスを実施する。

D 成功のカギ「教育課程の開発」

・ 学校設定科目「Myエリア・ラーニング」で「ジモト大学」プロジェクトや「新庄祭り」などの地域活動を、学校外における学修として単位認定する。

3 主な成果と課題

<成果> ・ 生徒が地域連携を意識しており、探究活動が活性化した。

・ ジモト大学 Web システムなど新しい動きが生まれた。

<課題> ・ 教育課程に係る事業の具体化が遅れていること（ふるさと科目、Myエリア・ラーニング）

・ 生徒による探究活動の振り返りの充実

・ 全体的なマンパワーと、生徒に係る予算の不足

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」【山形東】

1 経緯

グローバルな視野をもって、地域課題に立ち向かうグローバルリーダーを育成する。「俯瞰的視野に基づく地域に関連する現実課題の発見と解決」に向けた教育実践を中心とした、教育課程の研究開発を行う。

- ① 地域の行政機関や専門組織、研究機関等とコンソーシアムを構築し協働しながら「山東探究塾」（総合的な探究の時間）において、現実課題の解決に取り組む探究活動を行う。
- ② 日常の教科・科目の授業や教育活動全体を、大学等研究機関や先駆的な取組みを行っている人材の指導助言を受けながら「探究型」に改善する。

2 地域と連携した「山東探究塾」における取組み

- ・ 専門機関や大学等の専門家による講義や演習を通して、課題発見や課題解決のために必要な俯瞰的なものの見方やイノベティブな考え方、協働的な学習等、探究活動に必要なスキルを習得する。
- ・ 行政機関や地域で活躍する人材による講義を通して、地域の現状や課題、課題解決のための様々な取組みを知り、地域課題を発見し、課題解決の試みを行う。
- ・ JICA等の専門組織や大学等の研究機関を訪問し、課題解決のための専門的な研究や実践を知り、課題解決に向けた探究活動を協働的に行う。
- ・ 課題解決の取組みや研究成果を、校内の発表会、校外の研究大会・学会及び海外研修（令和2年1月にシンガポール海外研修を予定）等で発表し、専門家等の指導助言を受ける。
- ・ 「俯瞰的視野に基づく地域に関連する現実課題の発見と解決」に向けた教育実践の成果やイノベーションの成果を地域に還元することで、自己有用感や自己効力感が生まれ、地域課題に立ち向かうリーダーとしての自覚を養う。

3 地域のリソースを活用した授業改善の取組み

大学等研究機関の専門家から協力や指導助言を得ながら、日常の教科・科目の授業や教育活動全体を「探究型」に改善し、生徒に確かな基礎学力を習得させ、探究活動に必要な学力や学習スキルを身につけさせる。また、山東探究塾と教科・科目は相互に関連しながら、お互いを深めていく関係である。

4 主な成果と課題

- <成果> ・ 山東探究塾は、教科「情報」やホームルーム活動と密接に連動しながら実施している。
- <課題> ・ 海外交流プログラムの開発、校内組織の最適化、教員のファシリテーション能力の向上。

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」【小国】

1 経緯

人口減少による担い手不足のため、地域の産業やコミュニティを維持していくことが困難となっている。高等学校卒業後に、地域で就職または将来地元で就業し、地域づくりにも積極的・主体的に関わる人材づくりを行う。

2 「白い森 創生プロジェクト」

既存のコミュニティスクールの仕組みを活用して、コンソーシアムを構築している。以下の取組みを行っている。

- ・ 実践的なキャリア教育
地元産業界等の協力の下、地域に密着した実践的な職業体験
例) 企業発信型長期間インターンシップ、地域の若者企業人懇談会等
- ・ 外部人材の活用
地域内にとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供
例) アントレプレナーシップ教育、大学連携等
- ・ 実践的な白い森未来探究学と教科横断的な取組み
例) 白い森未来探究学（1年地域文化、2年地域実践、3年地域構想）等

3 「白い森未来探究学」（総合的な探究の時間）の詳細について

<1年次> 「地域文化学」（自己の興味関心を高める）

ファシリテーション研修、プレゼンテーション研修、フィールドワーク、ワークショップ、トークフォークダンス

<2年次> 「地域実践学」（個々の課題を設定し、調査・研究・実践）

ゼミ形式での学び、トークフォークダンス、フィールドワーク

<3年次> 「地域構想学」（今までの調査・研究・実践から新たな提案）

トークフォークダンス、まとめ

* 1～3年次の活動を通して、生徒の進路実現（就職・進学）につなげる。

4 主な成果と課題

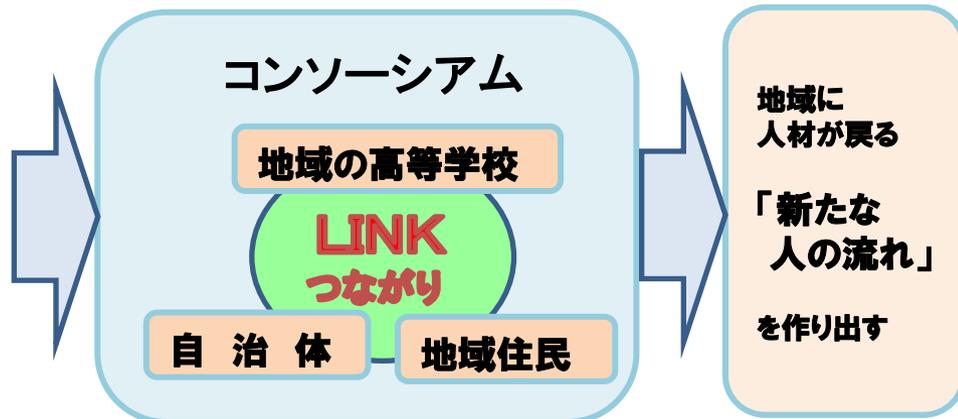
<成果> ・ 2・3年生の活動や、小規模校サミットが1年生の活動のロールモデルとなっており、生徒がのびのびと活動している。

<課題> ・ カリキュラムを、より実践的な取組みとしていくことが必要である。地域や小中学校と一層連携を深め、地域外との交流等を進めて、多様性を確保していくことが必要である。

少子化・人口流出など地域の課題の解決に向けて

地域の未来を切り開く高い志と能力を持った『人財』を育成する

- ①探究心と地域の課題を解決する高い能力を持った人材
- ②郷土に対する誇りを持ち、社会や地域とつながる意欲にあふれる人材
- ③Society5.0に変容する地域社会の中でAIやデータの力を最大限活用し展開して地域を牽引していく人材



Local area academic inquiry

A. 地域と密着した探究型学習

- A-a 地域理解プログラム / 最上総合支庁等との連携で地域課題を探究
- A-b 「ジモト大学」プロジェクト / 最上8市町村・県が提供するプログラムを体験
- A-c 地域理解発展研究 / 地域をフィールドにした探究課題にチャレンジ
- A-d 研究発表実践 / 探究型学習の成果を活かした進路実現
- A-e 地域系部活動の設置 / 地域連携のフロントランナーになる意欲的な生徒に探究の場を提供

Information communication technology

B. ICT技術の活用

- B-a 地域連携アプリの開発 / スマホを「振り返り」のe-ポートフォリオ化に活用
- B-b 情報リテラシーの醸成 / ビッグデータ・AIを当たり前のものとして活用できる生徒の育成

New career education

C. 新しいキャリア教育

- C-a アカデミックインターンシップの取組 / 進学校と地元企業との将来につながる情報交換の推進
- C-b 研究実績の進路指導への活用 / 振り返りデータを用いた新しい高大接続の形の模索

Key to success

D. 成功のカギ「教育課程の開発」

- D-a 「ふるさと科目」の開設と教材開発 / 地域情報のインプットによる探究活動の深化と一般教科への還元
- D-b 学校設定科目「Myエリア・ラーニング」の開設 / 地域での活動(ジモト大学、新庄まつり囃子や山車づくりなど)を単位認定

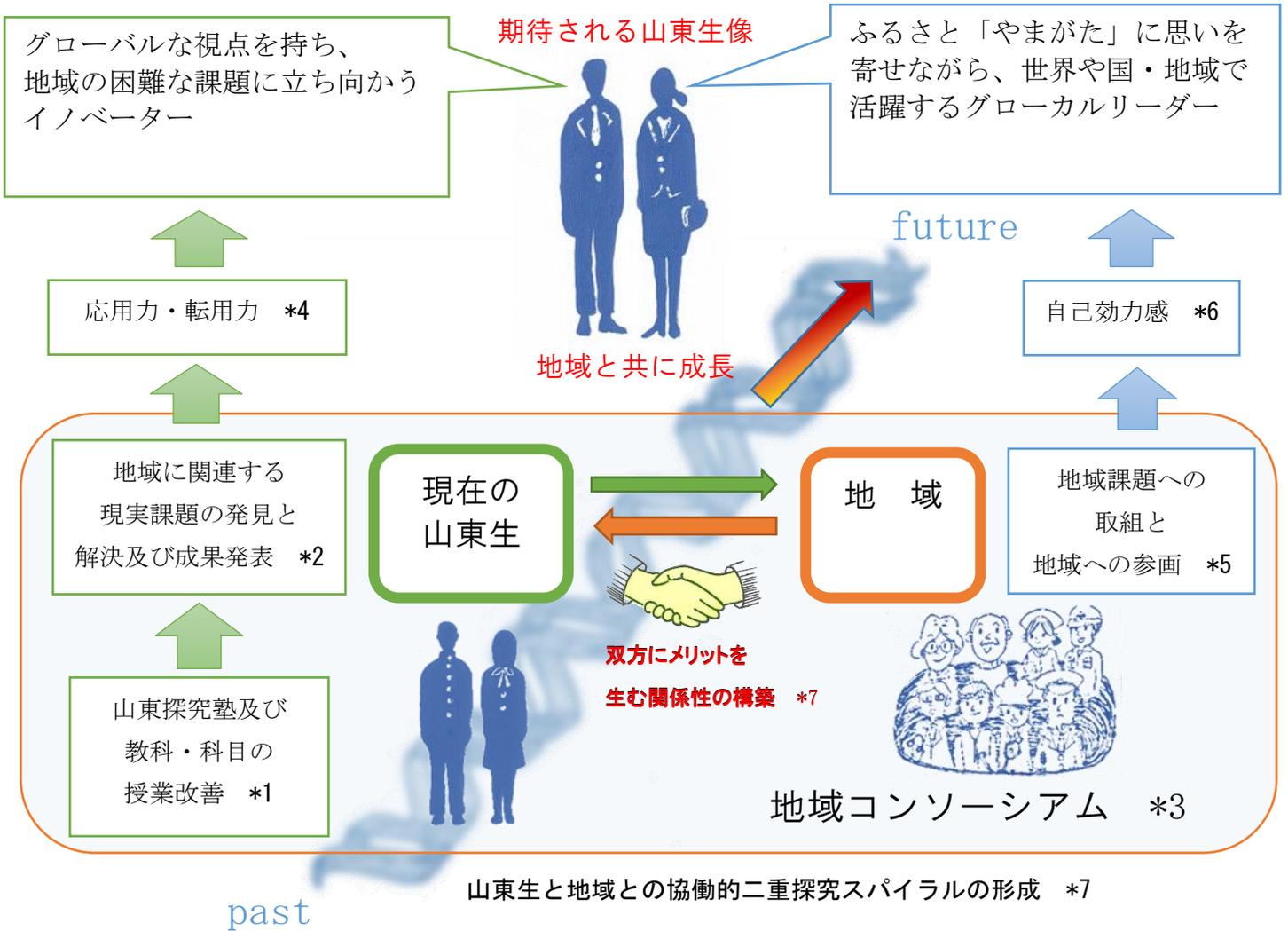
※研究発表は地域住民等の参加型(ジモトサミット)→地域の総合計画に参画→地域課題解決の経験・地域を牽引する人材の育成



『ふるさとやまがたの課題に立ち向かう

グローバルリーダーの育成』

～ Be an Explorer, an Innovator, and 『山東生』! ～



山東生と地域との協働的二重探究スパイラルの形成 *7

past

身につけさせたい 資質・能力	取組内容	期待される効果	将来の展望・発展性
①課題発見力・解決力 ②確かな基礎学力 ③高い英語力及び コミュニケーション能力 ④自己探究力 ⑤俯瞰力 (世の中や自分の立ち位置を認知・分析し、未来を見通す力)	①地域と協働した山東探究塾による実践 *1 ②大学等研究機関の専門家と協働した教科・科目の授業改善 *1 ③地域の課題発見と課題解決の試み *2 ④研究及び取組の成果発表 *2 ⑤地域との協働的教育プログラムの開発 *3	①応用力・転用力の向上 *4 ⇒イノベーション力の向上 ②地域への参画 *5 ⇒アイデアの提供 ⇒地域活動への主体的参加 ③自己効力感の醸成 *6 ⇒自己肯定・有用感の向上 ⇒郷土愛の醸成 ④地域との持続的成長 *7 ⇒山東生と地域との協働的二重探究スパイラルの形成	①同様な課題を抱える地域への課題解決モデルの提供 ②地域人材を育成する他の高校のカリキュラムモデルとなる。



コンソーシアム＝学校運営協議会（既存のコミュニティスクールの仕組みを活用）

地域

課題

人口減少による担い手不足のため地域の産業やコミュニティを維持していくことが困難

求める人物像

卒業後に地域で就職又は将来地元で就業し、地域づくりにも積極的・主体的に関わる人材

協働

地域協働学習
実施支援員

小国高校

教育目標

知・徳・体が調和し、人間力に満ちあふれた人材
広い視野と高い志をもって、地域に貢献し国際社会に生きる活力ある人材

白い森人

実践的なキャリア教育

地元産業界等の協力の下、地域に密着した実践的な職業体験

- ・企業発信型長期間インターンシップ
- ・地域の若者企業人懇談会
- ・行政講話
- ・農林業にかかわる営利活動体
- ・生徒発案によるポランティア・地域貢献活動等
- ・地域資源活用ビジネスプランコンテスト

課題

カリキュラムをより実践的な取組としていくことが必要
地域や小中学校との一層の連携が必要
地域外との交流等を進め多様性を確保していくことが必要

支援

外部人材の活用

地域内にとどまらない幅広い分野で新しい価値を提供

- ・アントレプレナーシップ教育
- ・地域外で活躍する人と交流
- ・ファシリテーション研修
- ・大学連携
- ・ICT遠隔教育

実践的な白い森未来探究学と教科横断的な取組

生徒が生活の場である小国町を理解し、地域課題について解決策を検討して自ら実践

- ・白い森未来探究学
- ・地域の実践的な主体と協働
- 「1年 地域文化・2年 地域実践・3年 地域構想」
- ・小国町ならではの働き方・暮らし方を検討
- ・高校生議会
- ・大学での研究室活動、各種発表
- ・地域課題中学生グループセッション

カリキュラム開発等専門家
高校の取り組みを具体化

小中学生にとって小国高生が地域を担うモデル像となる

第2回全国高等学校
小規模校サミット主催

保小中高一貫教育を活用
地域交流学習・教育フォーラム発表

保・小・中の白い森学習で培われた郷土愛

